

「琉球泡盛海外輸出 プロジェクト行動計画」 実施状況

令和元年 8 月 9 日

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
(1) 情報発信の強化			
1	消費者向け提案型集約サイトを確立 【沖縄県酒造組合】	7月末 昨年度リニューアルした酒造組合の公式サイト (https://okinawa-awamori.or.jp)において、各酒造所の情報トピックスなどを取り上げる「PICK UP」の枠で酒造所の旬な情報コンテンツを公開。 ※PICK UPは、各酒造所が当組合公式サイトに取り上げたいコンテンツを事前に組合へ申請して紹介する掲載枠。	47酒造所ごとの紹介PVの多言語吹き替え（テロップ含む）対応を行う。 - 酒蔵ツーリズムを進めていくに当たり、各地域と各酒造所のコンテンツ充実を図り、観光客が地域を回遊するための、旅前・旅中情報として発信を行う。（例：泡盛×食×文化×人物×土地柄など） - 文化ストーリーについて【琉球泡盛×琉球料理×芸能】による日本遺産コンテンツのストーリー紹介や、体験コンテンツなどを網羅した情報発信も実施していく。
2	観光客に向けた情報発信 【（一財）沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄県】	「古酒の日」等、泡盛にまつわる記念日などについて、沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）の所有するSNSを駆使して情報を発信。 - 同様に、国内、海外向けの観光印刷物においては「泡盛」を重点コンテンツとして据えて発信。 - OCVBとして「琉球文化日本遺産推進協議会」の構成メンバーに加入。「泡盛」「琉球芸能」「琉球料理」を沖縄の観光を発信する上での重要コンテンツとして位置付け観光・MICE事業に資していく。	9月4日（古酒の日、ケースの日）や、11月1日の「泡盛の日」においての情報発信を継続的に行っていく予定。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
3	海外のイベント等での情報発信 【（一財）沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄県】	日本政府観光局（JNTO）協力の旅行展示会、セミナー、レセプション、沖縄県・OCVB主催の催事において「泡盛の試飲スペースの確保」や、ゲストへの提供等を予定。（9月～12月）	- 香港（未定）、台湾（未定）で商談会の開催を予定。 - 韓国（11月）、シンガポール（未定）でレセプション開催を予定。 - 上記イベントに来場予定の現地VIP観光関係者への「泡盛」のプレゼンテーションに努める。
4	国のイベント等を活用した情報発信 【内閣府知的財産戦略推進事務局】	クールジャパン官民連携プラットフォーム総会において泡盛の女王によるPRを実施。	泡盛の認知度向上や飲用機会の提供を目標として、総会交流会で泡盛を提供しPR（令和2年3月）。
5	インフルエンサー等による情報発信 【内閣府知的財産戦略推進事務局】	クールジャパン（CJ）アンバサダーへの情報提供他、知財事務局facebookでの情報発信を実施。	泡盛の認知度向上を目標として、知財事務局facebookで情報発信に加え、CJアンバサダーへの情報提供を実施する。その他、発信する情報に合わせて適宜発信（11月1日泡盛の日等）。
6	各種施策における鑑定官の講師派遣 【国税庁】	6月 G20大阪サミットの開催に合わせて、国税庁ブース内にて泡盛コーナーを設置。海外のメディア関係者に対して、泡盛の試飲や鑑定官による、パネル等を用いた説明を実施。	各種施策のニーズに応じた琉球泡盛のレクチャー内容を検討し、より琉球泡盛の魅力が伝わるようにする。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
7	情報発信ツールの整備と活用 【国税庁、沖縄国税事務所】	6月 インバウンドの泡盛認知度の向上を目指して、関係者が泡盛のPRに広く活用できるように、空手などと泡盛をコラボさせたPR動画を作成。 - 香港・那覇航路のクルーズ船内において、中国人乗船客への試飲会やワークショップ等を開催。	- インバウンドへの認知度向上を目指して、英語版の「酒蔵マップ」作成やタイ語版のパンフレット作成などPR素材の多言語化を図る。 8月には羽田空港国際線ターミナルで試飲会等のプロモーションの開催、9月には香港・那覇航路のクルーズ船内でのプロモーションの開催予定。
8	インフルエンサー等による情報発信 【沖縄国税事務所】	4月 泡盛の魅力発信を行うため、泡盛クイーンズサポーター（歴代泡盛の女王で構成）を結成。	泡盛クイーンズサポーターを泡盛PRイベント等へ派遣し、泡盛の魅力のスピーカーとして活用する。
9	海外メディア等を通じた泡盛情報の海外発信 【（独）日本貿易振興機構】	4月14日 沖縄県で開催された島酒フェスタにあわせて、泡盛セミナーを開催。在沖外国人を対象とする英語セッションも設け、泡盛の魅力を紹介（英語セッションには31名が参加）。また、在京米国人である講師の酒蔵訪問等をアレンジ。同氏のSNSに泡盛に関する英語情報が多数掲載された。 7月1～2日 英国ロンドンで開催された酒類専門見本市「Imbibe Live 2019」に国税庁とともにジャパンパビリオンを設置し、泡盛酒造所を含む泡盛取扱事業者3社の出品を支援するとともに、泡盛を紹介するマスタークラスも開催。	- 輸出商社が行う泡盛を含む日本産酒類のシンガポールでのプロモーションを支援予定。 11月7日～9日 香港で開催されるアジア最大級の酒類専門見本市「Hong Kong International Wine & Spirits Fair 2019」にジャパンパビリオンを設置し、酒類輸出商社1社の出品を支援するとともに、泡盛のプロモーションを実施予定。 - 海外バイヤーを沖縄県に招聘し商談会及び蔵元訪問を実施予定（下半期）。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
10	琉球泡盛海外輸出 プロジェクト・ポータルサイトの構築 【プロジェクト事務局】	5、6月 内閣府沖縄総合事務局ウェブサイト (http://www.ogb.go.jp/soumu/017012)にて、平成30年度沖縄酒類製造業自立経営促進事業の報告書、第5回プロジェクト会合の情報等を掲載。 - SNS「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」の開設を予定。 「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」の各種支援内容のまとめサイト (https://okinawa-awamori.or.jp/support/)の情報の充実・更新を図る。	- 内閣府沖縄総合事務局ウェブサイトにて、引き続きプロジェクト関連情報を掲載する。 - SNSにおける「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」を開設し、関係団体の情報連携を図る。 47酒造所に再度、まとめサイトの支援内容等の周知をはかりつつ、卸小売酒販組合や海外輸出に特化した事業者に対しても、同サイトの周知を強化していく。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
(2) 効果的な販路拡大・市場拡大			
1	海外へアプローチするためのペルソナ調査分析 【沖縄県酒造組合】	4月 昨年度調査した国別消費者の属性内容を全酒造所に対して情報共有。 - 各酒造所の日常の営業活動における、消費者像の指標のものさしとして活用してもらう一方、想定ターゲットに関する仮説との不一致やズレなどについて、各酒造所から組合へのフィードバックを依頼。	- インバウンド観光客の嗜好情報を効率的に収集するため、WEBやSNSを活用した各種施策を検討する。 - 具体的には「FUN JAPAN」が持っている各国の現地調査ネットワークを活用し、インバウンド観光客ニーズと、自国の消費者ニーズの違いや嗜好などを掘り下げて、実践的なペルソナ像を構築する。
2	国内の大型酒類展示見本市への出展 【沖縄県酒造組合】	「ツーリズムEXPO in大阪」について、日本観光振興協会と詳細な打合せを実施。 - 酒蔵ツーリズムについてのプレゼン内容をはじめ、各種制作物についても協議中。	- 昨年同様「FOODEX JAPAN」と「ツーリズムEXPO in大阪」に出店予定。 10月18日～19日 「本格焼酎・泡盛コレクション2019 in 六本木ヒルズ」に出展予定。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
3	沖縄国際物流ハブ活用推進事業 【（公財）沖縄県産業振興公社・沖縄県】	4月1日 以下の項目に係る補助金の申請及び相談受付を開始。 ①見本市・物産展等への渡航費用 ②海外バイヤー等の招聘費用 ③現地での販売促進活動費用 ④商品改良に関する費用など - 企業（泡盛事業者を含む）の積極的な活用を促すため企業向け説明会を実施。 ・那覇：4/3・<u>10</u> ・名護：4/8 ・宮古：4/4、石垣：4/5	- 引き続き、補助金申請、相談受付を実施。 - 支援制度の積極的な活用を促すため、事業PR、事業説明会を実施。
4	沖縄大交易会 【（公財）沖縄県産業振興公社・沖縄県】	4月19日～7月24日 サプライヤーを募集。 - 県内サプライヤー（泡盛事業者を含む）の積極的な参加を促すため、企業向け参加者募集説明会を実施。 ・那覇：4/3・<u>5/15</u> ・名護：4/8 ・宮古：4/4、石垣：4/5 - 参加（予定を含む）企業（泡盛事業者を含む）の成約率向上を目指し、関係機関と協力して各種セミナーの実施 ①7/19：食品流通業界の最新トレンドと長期育成できる売れる商品開発 ②8/2：貿易実務セミナー	8月中 参加サプライヤーの確定 - 引き続き、各種セミナーを実施する。 ③9/2：これだけは知っておくべきEPA/FTAセミナー ④9月下旬：成功事例・失敗事例から見るブランド戦略の効果 <参考> 大交易会開催 開催日時：2019年11月14日-15日 開催場所：沖縄コンベンションセンター ※詳細、申し込みは沖縄大交易会ウェブサイト（http://gotf.jp/）

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
5	クルーズ船での泡盛の活用促進 【（一財）沖縄観光コンベンション ビューロー、沖縄県】	- 現状、船内でのイベント開催での「泡盛」についての積極的な展開は難しい状況だが、クルーズ船発着地でのクルーズ関係者とのイベントや、BtoB向けの商談会、船社訪問時において「泡盛」のPRに努めている。（6月 中国アモイで実施） - 那覇市や、その他港関係者とクルーズ関係者との橋渡し役を担うことも多々あることから、様々な機会において「泡盛」の話題を提供していく予定。	- 今年度、過去最多の約700回前後のクルーズの寄港回数が県内全体で予定。 - リピートする船社に加えて新規の船社も予定されていることから、船社訪問や、関係者との打ち合わせ、あるいはキャンペーン時における「泡盛」についての活用の依頼、話題の提供を行う。
6	リゾートウェディングでの泡盛の活用促進 【沖縄県】	- 沖縄リゾートウェディングフェアin台湾において泡盛の紹介することを検討。 - 県内リゾートウェディングでも泡盛を取り入れた挙式や引き出物への利用などを行っている。	業界や関連団体等と連携し、リゾートウェディングにおける泡盛の利用促進を図っていく。
7	【（株）沖縄県物産公社】	米国における販路拡大を見据えて、取引条件の変更が必要なことから商流等の見直しを検討中（県内メーカーとの調整を含む）	輸出体制及び商流の見直しについて関連企業との調整を進めて行く。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
8	【（株）沖縄県物産公社】	台湾向け輸出拡大に向けた現地取扱い業者と県内メーカーとの調整（販促活動、販売計画の調整等）を実施。 ※見本市参加、カタログ更新（販売カタログへ泡盛の掲載）	現地取扱異業者と販売拡大に向けた取組みの調整（物産展参加、プロモーション等の実施、他）を継続して行っていく。
9	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（特産品振興貸付制度） 【沖縄振興開発金融公庫】	30年度末泡盛製造業者への融資貸付残高：31社、32億1200万円。 - うち、特産品振興貸付制度による貸付残高：14社、10億3300万円。 - 公庫調査レポート「泡盛メーカーの現状と課題」（30年6月発刊）を踏まえて資金面及び経営面から支援。 (http://www.okinawakouko.go.jp/) - 特産品振興貸付制度の拡充（31年4月）により、海外輸出に向けた取組みを初期段階から金利優遇で支援。 ※制度拡充の内容 海外輸出取組の初期段階（異業種連携の商品開発、マーケティング等の共同化、同業者や商社等と連携した輸出等）の資金にも特別利率を適用。	各事業者の個別の資金需要に対応
10	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（泡盛古酒製成事業） 【沖縄振興開発金融公庫】	30年度末泡盛古酒製成事業による貸付残高：8社、4億3200万円。	各事業者の個別の資金需要に対応

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
11	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（泡盛在庫担保制度） 【沖縄振興開発金融公庫】	① 30年度末泡盛在庫担保制度による貸付残高：7社、5億5600万円。	各事業者の個別の資金需要に対応
12	沖縄酒類製造業の自立経営促進事業 【内閣府沖縄振興局・沖縄総合事務局・沖縄県】	- 今年度は、琉球泡盛のプロモーション等に加え、具体的な商流につなげることを視野に入れ、以下の7分野について事業を実施。 ① 中国白酒戦略 ② 欧米ハードリカー戦略 ③ テロワール・マリアージュ戦略 ④ アジア蒸留酒戦略 ⑤ ウチナンチュ戦略 ⑥ 琉球空手戦略 ⑦ アワモリビジネスパートナーシップ戦略 4月26日 委託事業開始（契約）	7事業者により、13か国・地域（例：中国、デンマーク、オランダ、オーストラリア、韓国、シンガポール、香港、アメリカ）において、琉球泡盛の販路拡大等に向けたモデル事業を実施。（輸出目標数量：30KL）
13	空手とのコラボによる市場拡大 【内閣府沖縄振興局・沖縄総合事務局・沖縄県酒造組合】	- 沖縄酒類製造業の自立経営促進事業にて、琉球空手戦略として2事業を実施。 7月～10月 「泡盛&空手」をテーマとしたJTA機内での映像の放映、JTA機内誌でのPR記事掲載。	北米（サンフランシスコ、ロサンゼルス）において、「空手と泡盛」の関係性を活用したプロモーションを実施し販路開拓・強化を図る。
14	泡盛海外展開支援 【内閣府沖縄総合事務局】	企業の海外展開を支援する「沖縄国際ハブクラスター事業」の一環として、欧米への展開を図る企業4社の取組を支援するため、海外展示会への出展の一部補助などを実施。	事業進捗に応じ、沖縄総合事務局の有する支援メニュー等の活用や、関係機関等と連携し、マーケティング調査、プロモーション等を支援（欧州、米国）

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
15	海外の大型酒類見本市への出展支援 【国税庁】	7月 泡盛の海外における認知度向上を図るため、ロンドンで開催されたImbibe Live2019に、日本産酒類プロモーションブースを設置し、泡盛業者（製造、販売）も出展。	引き続き海外における新市場開拓のきっかけを構築すべく、JETROと連携し、出展先を検討。
16	海外需要創出等支援対策事業 【農林水産省】	- ジェトロを通じて泡盛を含む輸出関心事業者に対する情報提供・アドバイス、商談会への出展等実施。 4月14日 沖縄県で開催される島酒フェスタにあわせて、ジェトロが泡盛セミナーを開催。外国人から見た泡盛の魅力とその伝え方について講演、53名が参加。 6月19日～22日 台北で開催された総合食品見本市「FOOD TAIPEI 2019」にジェトロがジャパンパビリオンを設置し、泡盛酒造所1社の出品を支援。 6月24日 沖縄県北部の名護にて沖縄県酒造組合北部事業者を対象に、泡盛輸出に向けた勉強会を開催。ジェトロ沖縄所長が講師を務め、10人が参加。	- 輸出商社が行う泡盛を含む日本産酒類のシンガポールでのプロモーションを支援予定。 11月7日～9日 香港で開催されるアジア最大級の酒類専門見本市「Hong Kong International Wine & Spirits Fair 2019」にジェトロがジャパンパビリオンを設置し、酒類輸出商社1社の出品を支援するとともに、泡盛のプロモーションを実施予定。 - ジェトロが海外バイヤーを沖縄県に招聘し商談会及び蔵元訪問を実施予定（下半期）。 - 専門家による泡盛事業者のハンズオン支援を実施予定（現在、ジェトロが支援対象となり得る事業者に声掛け中）。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
17	泡盛特化型輸出支援パッケージ 【（独）日本貿易振興機構】	・ 泡盛酒造所等に対する情報提供・アドバイス、商談会への出展等実施。 ・ 4月14日 沖縄県で開催される島酒フェスタにあわせて、泡盛セミナーを開催。外国人から見た泡盛の魅力とその伝え方について講演、53名が参加。 ・ 6月19日～22日 台北で開催された総合食品見本市「FOOD TAIPEI 2019」にジャパンパビリオンを設置し、泡盛酒造所1社の出品を支援。 ・ 6月24日 沖縄県北部の名護にて沖縄県酒造組合北部事業者を対象に、泡盛輸出に向けた勉強会を開催。ジェトロ沖縄所長が講師を務め、10人が参加。 ・ 7月1日～2日 英国ロンドンで開催された酒類専門見本市「Imbibe Live 2019」に国税庁とともにジャパンパビリオンを設置し、泡盛酒造所を含む泡盛取扱事業者3社の出品支援。	・ 輸出商社が行う泡盛を含む日本産酒類のシンガポールでのプロモーションを支援予定。 ・ 11月7日～9日 香港で開催されるアジア最大級の酒類専門見本市「Hong Kong International Wine & Spirits Fair 2019」にジャパンパビリオンを設置し、酒類輸出商社1社の出品を支援するとともに、泡盛のプロモーションを実施予定。 ・ 海外バイヤーを沖縄県に招聘し商談会及び蔵元訪問を実施予定（下半期）。 ・ 専門家による泡盛事業者のハンズオン支援を実施予定（現在、ジェトロ沖縄事務所にて支援対象となり得る事業者に声掛け中）。
18	沖縄で開催されるタイ・フェスティバルにおける泡盛プロモーション 【沖縄県】	・ 5月11日、12日 タイフェスティバル2019（東京）に出展。泡盛や泡盛ベースのリキュールやジンや原酒など、泡盛の多様性を多くの消費者の方々に体感いただくとともに、泡盛とタイとの繋がりについても説明を実施。	・ 10月4日～6日 「タイフェスティバルin沖縄」を開催予定。タイフェスティバル2019の調査結果をもとに、泡盛の普及啓発を展開していく。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
(3) 品質・技術の向上／人材育成			
1	横断的かつ俯瞰性を兼ねた中核人材育成 【沖縄県酒造組合】	今年度は、業界の人材育成の自走化を図るため、国税事務所の鑑定官と連携して、各地域での官能に関する集中講座を開講し、座学と実習を複数日かけての実施を検討。	今後は、各酒造所の方々に人材育成カリキュラムに主体的に参加してもらうために、各地域ごとに座学&実習を開講し、限られた期間で主体的に学んでもらう。具体的には、官能講座とマーケティング講座を主体として、官能評価を踏まえた官能開発が出来る人材を育成していく。
2	酒類卸売業者の泡盛に関する知識の向上 【沖縄県卸売酒販組合連合会・沖縄県小売酒販組合連合会・沖縄県酒造組合・沖縄国税事務所】	泡盛の魅力をインバウンド等に伝えるための能力の向上を目的として、「酒類卸売業者の泡盛に関する知識の向上のための講習会」を準備中。	10月頃 泡盛の情報発信等に関する講習会を開催予定。
3	訪日外国人に対する販売力強化 【沖縄県小売酒販組合連合会・沖縄県卸売酒販組合連合会・沖縄県酒造組合・沖縄国税事務所】	訪日外国人客の泡盛購買意欲が高まるような売り場環境作りを目指すことを目的として、「訪日外国人に対する販売力強化のための講習会」を準備中。	10月頃 泡盛の情報発信等に関する講習会を開催予定。
4	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（特産品振興貸付制度） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	
5	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（泡盛古酒製成事業） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
6	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（泡盛在庫担保制度） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	
7	泡盛鑑評会における品質評価の実施及び結果公表 【沖縄国税事務所】	泡盛の品質・技術の向上のため、より効果的な評価会や表彰式等のあり方について検討。	① 10月上旬 鑑定官及び有識者等による泡盛鑑評会品質評価会を実施予定。 ② 11月1日 泡盛鑑評会表彰式を開催予定。
（４）ブランド力の向上			
1	沖縄県産泡盛の地理的表示「琉球」の活用促進 【沖縄県酒造組合・沖縄国税事務所】	- 酒造組合で行う様々なイベントでの地理的表示の周知活動を実施。 6月中旬 ゲンティン香港「ワールドドリーム」の船内ゲスト向けの泡盛座学の中で「地理的表示（GI琉球）＝公的な地産認証マーク」であることをワークショップ形式でレクチャーを行った。	今年度は、サイト情報とも連携して、組合で発行している「琉球泡盛BOOK」に地理的表示の紹介やその理由などを明記したページを追記して印刷する予定。
2	「古酒の郷」を古酒ブランド発信基地として活用 【沖縄県酒造組合】	今年度は、古酒ブランド力の再興を促すために、古酒の郷協同組合と連携して、古酒の日施策及び古酒体験キャンペーン（仮称）と連携して情報発信を行っていく。	9月 情報発信の実施に向け内容の検討

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
3	首里城による琉球泡盛の歴史的価値に伴うブランド訴求活用 【沖縄県酒造組合】	- 現在企画会社と本年度イベント内容を精査中。 7月29日 首里城銭蔵でのプロモーションイベントについて関係団体と協議	昨年度同様、首里城公園と連携した価値訴求型の体験イベントの実施にあわせて、歴史的・文化的価値を連携しながら訴求していく。 【歴史・文化訴求型連携イベント】 11月2日～3日 「壺屋やちむん通り会タイアップ」として、酒器と古酒に関する体験イベントを行い、首里城銭蔵イベントと連携を図りながら、双方で体験イベント開催していく。
4	【（株）沖縄県物産公社】（再掲）	（再掲のため、省略）	
5	【（株）沖縄県物産公社】（再掲）	（再掲のため、省略）	
6	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（特産品振興貸付制度） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	
7	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（泡盛古酒製成事業） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
8	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（泡盛在庫担保制度） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	
9	琉球泡盛のPR 【外務省】	6月11日 在英国日本大使館にて開催された国際穀物理事会（IGC）70周年レセプションにおいて、泡盛のPRを実施。 6月28日～29日 G20大阪サミットにおいて、泡盛を提供。	これまでに実施したPR事業の効果・問題点等を踏まえ、在外公館等での泡盛PR事業をより効果的に実施。
10	琉球泡盛のPR 【日本トランスオーシャン航空（株）】	- 昨年5月にキックオフしたJAL group「琉球泡盛応援プロジェクト」を継続。 7月～10月 国内外で人気があり東京オリパラ前で注目度高い「空手」とのコラボレーションによる以下の普及促進策を展開。 ① 「泡盛＆空手」をテーマとした機内映像の作成と放映 ② JTA機内誌でのPR記事掲載 ③ 県内空手道場等にて空手愛好家に「カラテマンパス」を配布。空港売店での提示により泡盛等が割引となるインセンティブによる販促の実施 ④ 「空手」銘柄泡盛の機内・空港売店での販売	- 昨年のパリに続く海外プロモーション等を検討予定。 - 泡盛のコラボレーション商品の企画を検討予定。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
11	琉球泡盛テロワールプロジェクトの推進 【内閣府沖縄振興局・沖縄総合事務局、 沖縄国税事務所、沖縄県、JAおきなわ、 JA沖縄中央会、沖縄県酒造組合、農林 水産省政策統括官・農林水産技術会議事 務局】	- 琉球泡盛の輸出の拡大に向け、泡盛の原料となる長粒種米を県内で生産し、水田農業の活性化を図るとともに、酒造所とのマッチング等に取り組み、今年の2期作で伊平屋村において長粒種米（YTH183、北陸193号の2品種）を生産することを決定。 8月中旬 定植（田植え）予定。	2期作で生産される長粒種米（YTH183、北陸193号の2品種）を12月に収穫予定。 - 収穫された長粒種米は、JAおきなわから、沖縄県酒造協同組合を通して酒造メーカーへ供給。 - 来年の生産方針について関係者で検討し、本年中に決定予定。
12	琉球泡盛の日本遺産への登録 【沖縄県】	5月20日 「琉球王国から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして芸能」が文化庁により認定。 7月12日 琉球文化日本遺産推進協議会を設立。	日本遺産をPRするパンフレット等の広報ツール作成をはじめ、日本遺産ガイドを育成する養成講座の実施、地域住民の理解を深め、日本遺産の活用を図るためのシンポジウム等の開催、観光客に対し、日本遺産を有効なコンテンツとしていくための調査研究事業等を実施する。
(5) 輸出環境の整備			
1	沖縄振興開発金融公庫貸付制度 （特産品振興貸付制度） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	
2	沖縄振興開発金融公庫貸付制度 （泡盛古酒製成事業） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
3	沖縄振興開発金融公庫貸付制度 （泡盛在庫担保制度） 【沖縄振興開発金融公庫】（再掲）	（再掲のため、省略）	
4	沖縄振興開発金融公庫貸付制度（海外展開貸付制度） 【沖縄振興開発金融公庫】	① 30年度末泡盛製造業者の海外展開貸付制度による貸付残高：実績なし。	・ 各事業者の個別の資金需要に対応
5	関税引き下げに向けた交渉 【外務省、国税庁】	・ 各国地域との協議や経済連携協定交渉、日台貿易経済会議等を通じた関税引き下げに係る働きかけを実施。	・ 各種経済連携協定交渉等を通じた関税引き下げの働きかけを継続。
6	米国における蒸留酒の容器・容量規制の緩和 【国税庁】	・ 引き続き緩和の実現に向けた働きかけを実施。 ※7月 米国政府が上限（3.785ℓ）及び下限（50ml）を除いた蒸留酒の容器・容量規制の撤廃を提案し、現在意見公募中。	・ 緩和の実現に向けた協議等を当局間で継続。
7	海外販路拡大に向けた支援窓口への誘導 【沖縄国税事務所、（独）日本貿易振興機構】	・ 酒造組合の会合等において、JETROの取組等を紹介。	・ 引き続きJETROと協力し、泡盛製造者等のニーズを把握し、活動を支援。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
(6) インバウンドとの連携			
1	クルーズ船内での包括的プロモーション 【沖縄県酒造組合】	6月中旬 沖縄国税事務所と協力して、ゲンティン香港の「ワールドドリーム」船内でのプロモーションを開催した。 ① 6月14日～16日 香港周遊（4500名） ② 6月16日～18日 香港⇒那覇（3500名）	- 沖縄国税事務所と協力し、9月末に、同船「ワールドドリーム」で船内プロモーションを開催する。 - 単に泡盛の認知度向上や飲用経験を増やすだけでなく、琉球王国時代から連綿と続いている、沖縄のアイデンティティである「琉球泡盛」を、しっかりと沖縄固有の文化として認識してもらうため、泡盛にまつわる物語をはじめ、地域との結びつき、根付き方など、琉球泡盛を通じた文化交流の体験を、酒蔵ツーリズムで展開していくことを目指す。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
2	地域性を兼ねた包括的酒蔵ツーリズムの展開 【沖縄県酒造組合】	- 日本観光振興協会等の協力を得て、沖縄独自の酒蔵ツーリズムの骨子、そして今後の地域連携の酒蔵ツーリズムの企画概要について検討中。 4月13日、14日 県内の泡盛酒造所（40社）が一堂に集まったイベント「第2回島酒フェスタ」を、セルラーパーク那覇で開催。 来場客数：1万4,649人 酒造所総売上：1,581万円	- 今年度は、島酒ツーリズムの6エリアごと（北部・中部・那覇・南部・宮古・八重山）の酒蔵ツーリズム企画を展開し、各地域と酒造所の組合せで、地域ごとの特色を示し、旅行会社などとの施策連携を協議しながら、地域ごとの島酒ツーリズムを展開していく。 - 地域ごとの酒蔵ツーリズムの延長線に、地域と連携を図った、包括的な島酒フェスタの演出に結びつくよう、内容を構築していく。 - 上記の内容を踏まえて、2019年のツーリズムEXPOでも、包括的酒蔵ツーリズムの情報を構築し発信を行う。 - 今後の島酒フェスタについては、泡盛の試飲即売会の更なる充実をはかり、また教養的な側面での泡盛の歴史文化にまつわるワークショップの開催を行い、そして各地域と各酒造所の連携を示す特殊性を提案していく。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
3	海外航空会等への酒造所PR 【（一財）沖縄観光コンベンション ビューロー】	- 就航時には、航空会社主催のメディアツアーや、FAMツアーが開催されており、取材行程の中での「泡盛」の露出に努めている。（8月ジェットスターアジアと連携） - 既存就航便においても、定期的な顧客マーケティングを目的にメディアツアーを開催しており、その際の「泡盛」コンテンツの活用を提案。	東南アジアからは、今後も新規のLCCの参入の可能性（9月頃発表予定/マレーシア）もあることから、就航時のキャンペーンイベントや、メディアツアー、旅行社のFAMツアーにおいて積極的に「泡盛」を発信予定。
4	泡盛振興推進部会・海外販路開拓WT 【沖縄県、沖縄県酒造組合】	- 今年秋頃のWT開催に向け、調整をすすめる。 ①琉球泡盛泡盛海外プロジェクトとの連携、②沖縄県酒造組合の取組について、現状の取組の確認等を行い、関係団体と意見交換を行うとともに、泡盛業界内で情報共有を行う。	- WTにおいて、島酒フェスタにおいて、観光プロモーションを活用したインバウンドの取り込みを検討する。 - 琉球泡盛再興プロジェクト支援事業における泡盛月間イベント等において、関係団体・機関の連携した取り組みについて検討する。
5	泡盛振興推進部会・クルーズ船関連WT 【沖縄県、沖縄県酒造組合】	6月 泡盛振興推進部会・クルーズ船関連WTの提案・助言を受け、沖縄県酒造組合として、アジア初のプレミアム客船であるゲンティン香港のワールドドリーム号において、昨年に引き続き、船内プロモーションを実施。 - 今年秋頃のWT開催に向け、調整をすすめる。	WTにおいてクルーズ船における泡盛プロモーションのフィードバックを行い、より効果的な実施方法等について検討する。

	支援メニュー【団体名】	現状及び取組状況	今後の取組方向
6	訪日外国人による酒蔵訪問の受入体制整備 【観光庁】	- 泡盛の魅力を訪日外国人旅行者にも分かりやすく伝えるため、泡盛に関する英語解説文を作成する。 ① 5月10日 事業説明会実施 ② 5月中旬～ 多言語解説文を作成する項目を沖縄県酒造組合と検討	- 現地取材の後、専門人材による執筆・監修・校閲を経て、3月末に沖縄県酒造組合へ納品する予定。 ① 8月～11月 現地取材 ② 12月～3月 執筆・監修・校閲 ③ 3月末 地域（沖縄県酒造組合）へ納品